





令和4年10月23日(日)

## 青少年赤十字創設100周年記念事業

## 三重県青少年赤十字まつり

記念講演  
「国際赤十字活動と人道支援」  
～バングラデシュ避難民キャンプでの活動を通じて～

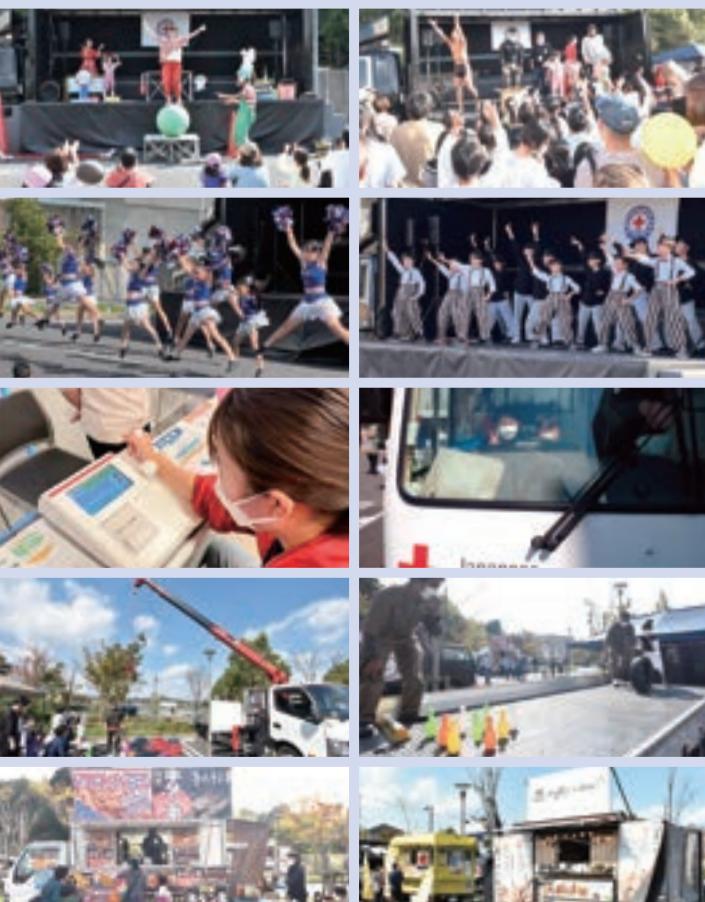
伊勢赤十字病院・看護師長安藤恵理さんに、2017年に日本赤十字社の医療チームの一員としてバングラデシュの避難民キャンプに派遣されて医療支援の活動を行った際の経験を話していただきました。真剣な面持ちで安藤さんのお話を聞き入る生徒たち。安藤さんは未来を拓く高校生たちに、「自分のできること、したいことを目指して将来に向けて知識を備えることや、いろんな経験をすることが必ず自分の成長につながる」と力強いメッセージを送ってくれました。

## 赤十字奉仕団



高校生の活躍の場を盛り上げるために、赤十字奉仕団の皆さんにも青少年赤十字まつりに参加していただきました。無線体験や点図作成、赤十字ハンド作りやAED体験、ハートちゃんのパン作りやお面つくりなど、活発にブースを展開。多くの子どもたちに、楽しみながら赤十字の活動への興味を広げる機会を提供してくれました。

## ステージ・協賛団体企画



特設ステージではダンスグループや話題の親子大道芸人「吉田さんちの大芸」のステージが披露され、最後にはお菓子まきを実施。集まったたちは大いに盛り上がりいました。参加したダンスマチームには、青少年赤十字創設100周年事業「つながるダンスプロジェクト」にも参加してもらいました。野外会場では、血液センターの献血車乗車体験をはじめ、キッチンカーやクレーン車を使ったゲーム、庭師体験などのお楽しみも。会場は終始賑わいを見せっていました。

バルーンアート  
館内ぐるぐるスタンプラリー

木本高校

さまざまな形状のバルーンアートを作って、来場者の皆さんに楽しんでもらいました。



会場内を歩き回って子どもたちにはいっぱい声をかけてもらえたのが嬉しかったです

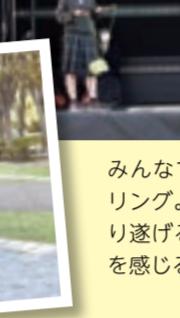
「接客」には少し不安がありましたが勇気を出して頑張りました。

子どもたちからの「ありがとう」が大きな励みになりました。

ジャグリング  
車いす体験

白子高校

車いす体験は新たな気づきを感じてもらえる時間に



みんなで日々練習してきたジャグリング。失敗しながらも最後までやり遂げることができ、大きな達成感を感じることができました。

## 生徒の声

「子どもたちとのジャグリング体験では、人に何かを教えるとの難しさを感じました。それでも、一緒に練習して上手くできるようになった子どもたちからは感謝の言葉をもらえて嬉しかったです」「ジャグリング体験によって、初めて会った相手ともコミュニケーションを深めることができます」と学ぶことができました



令和4年10月23日(日)、青少年赤十字創設100周年を記念して「三重県青少年赤十字まつり」が開催されました。県内8校のJRC高校生メンバーたちが中心となって企画・運営に携わり、例年の「青少年赤十字のつどい」をプラスアップした盛大な催しを企画。夏のトレセンでは具体的な取り組みについて活発な意見交換が行われました。

当日は三重県総合博物館 MieMu のコーポレーション・デー企画を活用してほぼ貸切状態に。各校の活動内容の披露に加えて、赤十字奉仕団の皆さんによる無線や点図作成などのイベントを実施。さらに、イベント企画会社の協力を得て屋外会場では各種キッズチケットの出店やクレーンゲームなどの職業体験イベントを実施。ダンスや大道芸などのステージイベントも行われるなどさまざまな趣向を凝らし、告知活動にも力を入れた結果、当初の目標を大きく上回る約4,000名を超える来場者で賑わいました。

開催まで多くの時間を費やしましたが、参加した生徒たちにとって、自分たちで「気づき」「考え」「実行する」大きな経験になってくれたこと思います。



参加したスタッフは総勢169名。三重大学教育学部1年生の学生ボランティアも応援に来てくれました。

## ボッチャ・射的

紀南高校・東紀州くろしお学園

会場の一角ではボッチャや射的に興じる子どもたちの楽しげな声が響いていました。



「投ごとに熱い視線が。誰もが一緒に楽しめる『ボッチャ』の魅力を味わってもらいました」といふだけの大きなイベントの企画・運営に携わるのは生徒たちにとって初めてのこと。達成感と反省が入り混じった経験は今後の成長の糧になります。

SDGsクロスワード  
クイズでおかしGET!

高田高校

クロスワードクイズを通じて、子どもたちにSDGsの取り組みの大切さを伝えました。

思っていたより多くの小さい子どもたちが来てくださいました。



## 生徒の声

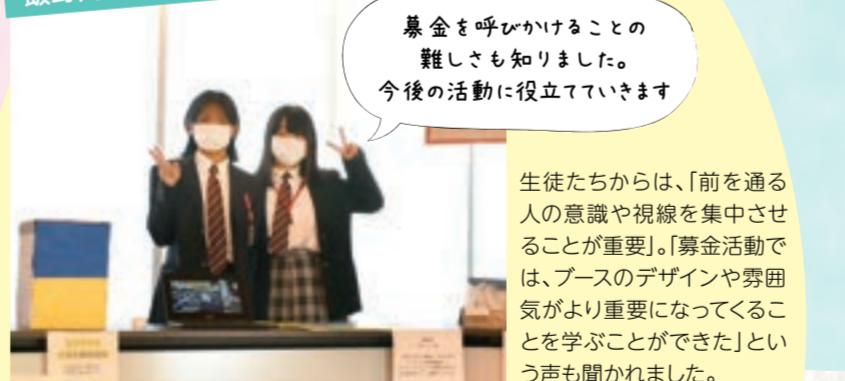
「子どもたちに問題の意味やヒントをわかりやすく伝えるのが難しかったけれど、子どもたちとふれ合えてとてもいい経験になりました」「今後の取り組みでは、SDGsの一つ「海の豊かさを守ろう」の実現に繋げていきたい。いつかは海の底が見えるくらい綺麗な海にしていきたいです」大人や小さな子どももといった普段の学校生活では交流のない年齢層の人たちに対して、もっと普段から積極的に関わり、いざとなつたときに助けられる人になりたいと思ったという感想を述べる生徒もいました。

ウクライナ人道危機  
救援金募金

飯野高校

会場入り口で募金活動を実施。多くの人たちが足を止めて、注目してくれました。

募金を呼びかけることの難しさも知りました。今後の活動に役立てていきます



## 生徒の声

「予想していたよりも多くの人が募金してください、想像以上の募金額が集まつたので嬉しかったです。募金してくれた人の割合は子どもが多くて、自分の中で意外でした。少しづつではあるけど、社会の状況と共に子どもたちの世界に対する興味や意識が変化しているのかなと感じました」

ハンドベル演奏体験  
手作りクリスマス飾り販売

久居農林高校

皆で息を合わせて特設ステージで演奏。緊張しながらも充実感を感じられる体験に。



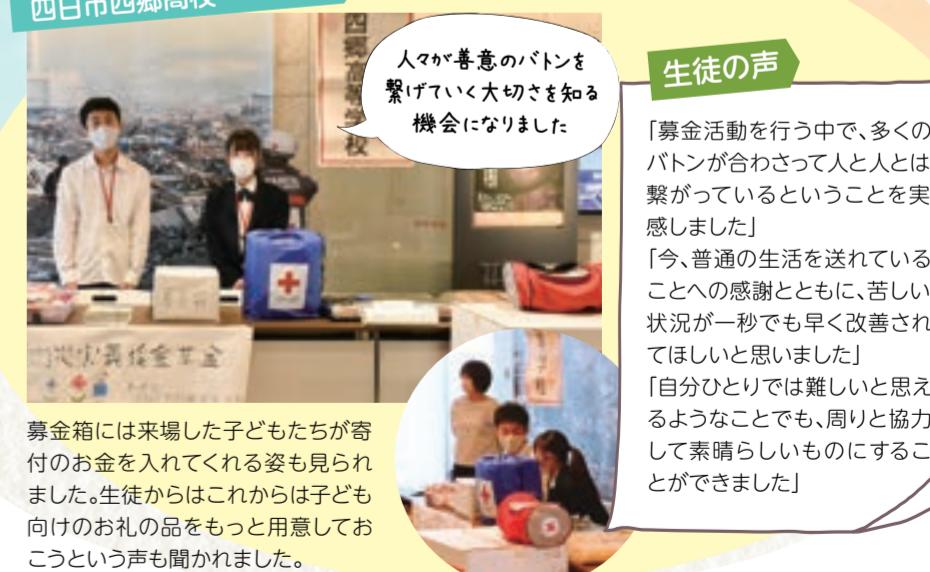
## 生徒の声

「募金活動でクリスマス・正月飾りを販売して支援活動を知ってもらえたし、自分も活動に協力できてよかったです」「多くの方に青少年赤十字の活動を知ってもらえる活動を続けていくことが大切」「他校の取り組みを見ていると大人から子どもまで興味を持てそうな楽しい企画がたくさんあって、自分たちの今後の活動の参考になりました」

## 国内災害義援金募金

四日市四郷高校

会場入り口にブースを設けて、国内の災害を支援するための募金を呼びかけました。



「募金活動を行う中で、多くのバトンが合わさって人と人とは繋がっているということを感じました」「今、普通の生活を送っていることへの感謝とともに、苦しい状況が一歩でも早く改善されほしいと思いました」「自分ひとりでは難しいと思えるようなことでも、周りと協力して素晴らしいものにすることができました」といふ



青少年赤十字ポスター・コンクール受賞作品も展示されました。



三重テレビやFM三重に出演して、「三重県青少年赤十字まつり」のPRをしました。